

立川市・昭島市 若者会議

令和7年度
実施報告書



主催 立川市・昭島市

令和8年2月



立川市・昭島市 若者会議

令和7年度 実施報告書

目 次

1.若者会議の目的・背景	
・ 実施の背景	3
・ 本事業の位置づけ	3
2.実施概要	
・ 実施体制・協力者	4
・ 参加者数・グラフ	4
3.広報・周知活動	
・ チラシ・ポスター・SNS広告	5
4.各回の実施内容	
・ オープン講座	6
・ 第1回 若者会議	12
・ 第2回 若者会議	19
・ 第3回 若者会議・提言発表会	25
5.成果と提言	
・ 提言発表会資料	29
6.まとめ・展望	36

主催 立川市・昭島市

企画運営 立川市・昭島市若者会議運営事務局

1. 若者会議の目的・背景



実施の背景

立川市と昭島市は連携して、若者の意見を聴き、市政に反映していくことを目的とし、立川市及び昭島市に在住・在学・在勤のおおむね18歳から39歳の方を対象にワークショップを基本とした議論の場を設けた上で、若者ならではの視点やアイデアをもって市に対する政策提言を行う取組を実施しました。



本事業の位置づけ

令和7年度の議論のテーマは「令和8年度以降の若者会議のあり方」とし、若者が主体となって理想の若者会議について議論を重ね、結果を取りまとめて発表し、市に対して提言を行う取組を実施しました。

2. 実施概要

実施体制・協力者

本会議全体の企画運営、事務局、ファシリテーションを株式会社シーズプレイスが担当し、進行役には株式会社野村総合研究所の稲垣仁美さんにご参加いただき、オープン講座と3回の会議を開催しました。会議の進行記録は、伝え～るの鈴木あゆみさんにグラフィックレコーディングをしていただきました。

グラフィックレコーディングとは？
グラフィックレコーディングは、会議やワークショップの対話内容を絵や図で可視化し、参加者間の共通理解を促進する手法です。

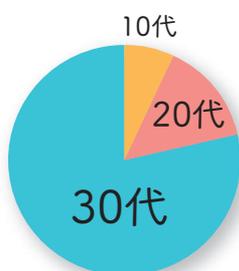
参加者数・グラフ

参加者は先着順で受付を実施し、18～39歳の30名から申し込みがありました（構成の内訳／立川市関係者：21名、昭島市関係者：6名、両市関係：3名）。各講座の参加者人数は以下の通りです。

オープン講座

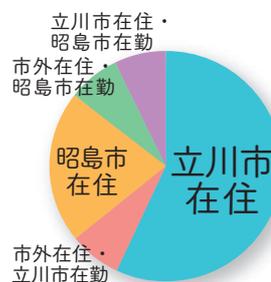
参加……………14

参加者の内訳は
右グラフの通り



年齢

10代 …… 1名
20代 …… 2名
30代 …… 11名



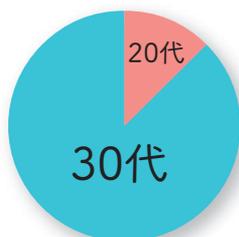
区分

立川市在住…………… 8名
市外在住・立川市在勤… 1名
昭島市在住…………… 3名
市外在住・昭島市在勤… 1名
立川市在住・昭島市在勤… 1名

第1回～第3回 若者会議

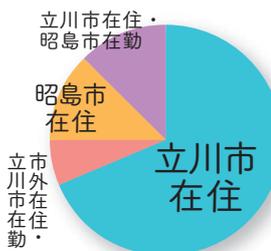
参加……………16

参加者の内訳は
右グラフの通り



年齢

20代 …… 2名
30代 …… 14名



区分

立川市在住…………… 11名
市外在住・立川市在勤… 1名
昭島市在住…………… 2名
立川市在住・昭島市在勤… 2名

3. 広報・周知活動

チラシ・ポスター

参加者募集の広報として、A4サイズのチラシと、A3サイズのポスターを制作しました。チラシは立川市・昭島市の市役所に配架するほか、無作為抽出の郵送や、市の掲示板に掲示して広報活動を行いました。



SNS広告

立川市・昭島市を対象エリアとして、Instagram及びXでSNS広告配信を実施しました。その結果、Instagram広告はCTR1.78%、CPC44円と高い費用対効果を示しました。一方、X広告は低コストで約1万人に到達し、認知拡大や周知の補完手段として一定の効果が認められました。

実施期間：令和7年9月8日～9月16日

※実施期間中に申し込み人数が定員を超えたため、広告配信を予定期間より早めに切り上げました。



指標	Instagram広告	X広告
リーチ	17,589人	9,523人
インプレッション	26,785回	12,757回
フリークエンシー	1.52回	1.34回
CTR	1.78%	0.85%
クリック数	477回	109回
CPC	44円	87円
CPM	723円	690円
動画3秒再生数	2,776回	743回
動画完走	269回	65回

用語注釈

- ※リーチ：広告を実際に見た人の数(実数)
- ※インプレッション：広告が表示された回数(のべ)
- ※フリークエンシー：1人の人が平均で何回広告を見たかを示す数値
- ※CTR (クリック率)：表示回数に対するクリックの割合
- ※クリック数：広告をクリックした回数の合計
- ※CPC (クリック単価)：1クリックあたりの広告費の平均費用
- ※CPM (インプレッション単価)：広告が1000回表示されるのにかかった費用
- ※動画3秒再生数：動画広告が3秒以上再生された回数
- ※動画完走：動画広告が最後まで再生された回数

4. 各回の実施内容

	開催日時	開催場所	参加人数
オープン講座 「このまちで、わたしができること」	令和7年 10月4日(土) 10:00～13:00	アキシマエンス 校舎棟 201会議室	14人
第1回 若者会議 「わたしにとっての地域課題って？」	令和7年 11月22日(土) 13:00～16:00	子育て支援・保健センター 「はぐるりん」 健康増進室	10人
第2回 若者会議 「“参加したくなる若者会議”って どんなカタチ？」	令和7年 12月20日(土) 13:00～16:00	たましん RISURUホール 第1会議室	12人
第3回 若者会議・提言発表会 「こんな若者会議にしたい！ わたしたちの声を届けよう」	令和8年 1月24日(土) 13:00～16:00	イーストテラス・サブスリー 301会議室	11人

若者会議 オープン講座

- テーマ：このまちで、わたしができること
- 日 時：令和7年10月4日(土) 10:00～13:00
- 会 場：アキシマエンス校舎棟201会議室
- 目 標：
 - 参加者同士が出会い、安心して意見を出せる場をつくる
 - 若者会議の趣旨と全体像を共有し、参加へのモチベーションを高める
 - 「自分がこのまちにどう関わりたいか」を言葉にし、共通の出発点をつくる
- 内 容：
 - ① 講演「このまちで、わたしができること」
 - ② 自己紹介、感想共有
 - ③ グループトーク「どんなまちにしたい？」

前半は地域で活動を行う先輩として株式会社シーズプレイスの代表取締役 森林育代さんに講演いただきました。後半は、参加者同士の交流を目的として、自己紹介やグループトークを行いました。

講演「このまちで、わたしができること」

森林さんご自身のライフストーリーを交えながら、「なぜ、地域とつながることが必要なのか」「どのような方法で地域と関わることができるのか」などを講演いただきました。講演後半のイントロダクションや質疑応答ではオンライン質問ツール「Slido（スライダー）」を活用し、活発な意見が飛び交いました。



講師の森林育代さん

< 講演中の様子 >



< スライド >

「なぜ、「まちに関わる」ことが大切なのか？」

- 自分の暮らしとまちのつながり
- 誰かが声をあげなければ変わらない
- 仲間と一緒にならでることが広がる



▶ 自分たちの暮らしをよくする大切な一歩

< グラフィックレコーディング >

まちーっけ!

わたしたちがつくる！若者のまちづくり会議 in立川・昭島

オープン講座 「このまちで、わたしができること」

2025.10.4
アキマインシス

「まちに関わる」なぜ大切?

- 暮らし ↔ まち
- 誰かが声を!!
- 仲間と一緒に

↓

暮らしをよくする大切な一歩

「関わる」メリット

- 出会い
- アイデアが外に
- 自分ごとになる

→ 暮らしを変えていく!

若者だからできること (行動力)

- 自由な発想
- 新しいツール
- 世代を橋渡し

つながりの重要性

≧ 1人より仲間と ≧

- 続くモチベーション
- カタチにする力
- 安心感

私は

参加

発信

始める

どの段階でも大きな意味がある

スライダーの意見

- 町内会への入り方が分からない!
- 関わり方が分からない → 情報交換の場は...?
- オープンイベント、SNS発信もほしい!
- 地域カフェいい!
- 市報はどこにある?

事例: 「むらり〜」武蔵村山街パルイベント

- 馬がな
- 店遠い
- イベントできない...

→ 無料バス運行

→ 地域をシェア!!

→ 関係資産の構築

→ 子ども科センタ... ワークショップ... 皆のアイデアを外にできた

街に関わる - 自分事に! - 仲間と一緒に!

Slido（スライダー）の意見

二次元コードの読み込みで、匿名で質問や意見提起ができるオンライン質問ツール「Slido（スライダー）」を活用した質疑応答や意見交換を行いました。

<スライダー>

ペアートーク・グループトーク

講演後はグループ同士で自己紹介や、講演の感想を話し合い、その後は「どんなまちにしたい？」のテーマに従って、各自の意見交換を行いました。その後、各グループで出た意見をグループごとに発表しました。



皆さん（若者）が地域に関わろうとすると“難しいな”と感じることは何ですか？

Anonymous

きっかけ
どこに、いつ、誰に声をかけるか、わからにくい

Anonymous

そもそも関わり方がわからない

Anonymous

どこに意見を発信していいかわからない。

Anonymous

よそ者なのでまったく地域に繋がりが無い

Anonymous

日常の仕事や生活との両立等

Anonymous

時間がないので参加できない(仕事と子育て)
自分の声が届かないのではという先入観
若者が少数派でやりにくい

Anonymous

町内会に入る方法がわからないし、入るのも難易度が高い

Anonymous

元々地元の人間ではなく、仕事も市外なので、関わるとっかかりがあまりない

Anonymous

ボランティアを高齢の方がやっていることが多く働いているとなかなかできない。
自分の声を届けることが難しかったり、仲間を集めることが大変。

Anonymous

まずはじめに誰に相談すればいいかわからない

Anonymous

どこにアクセスしていいかわからない。

Anonymous

時間がない

Anonymous

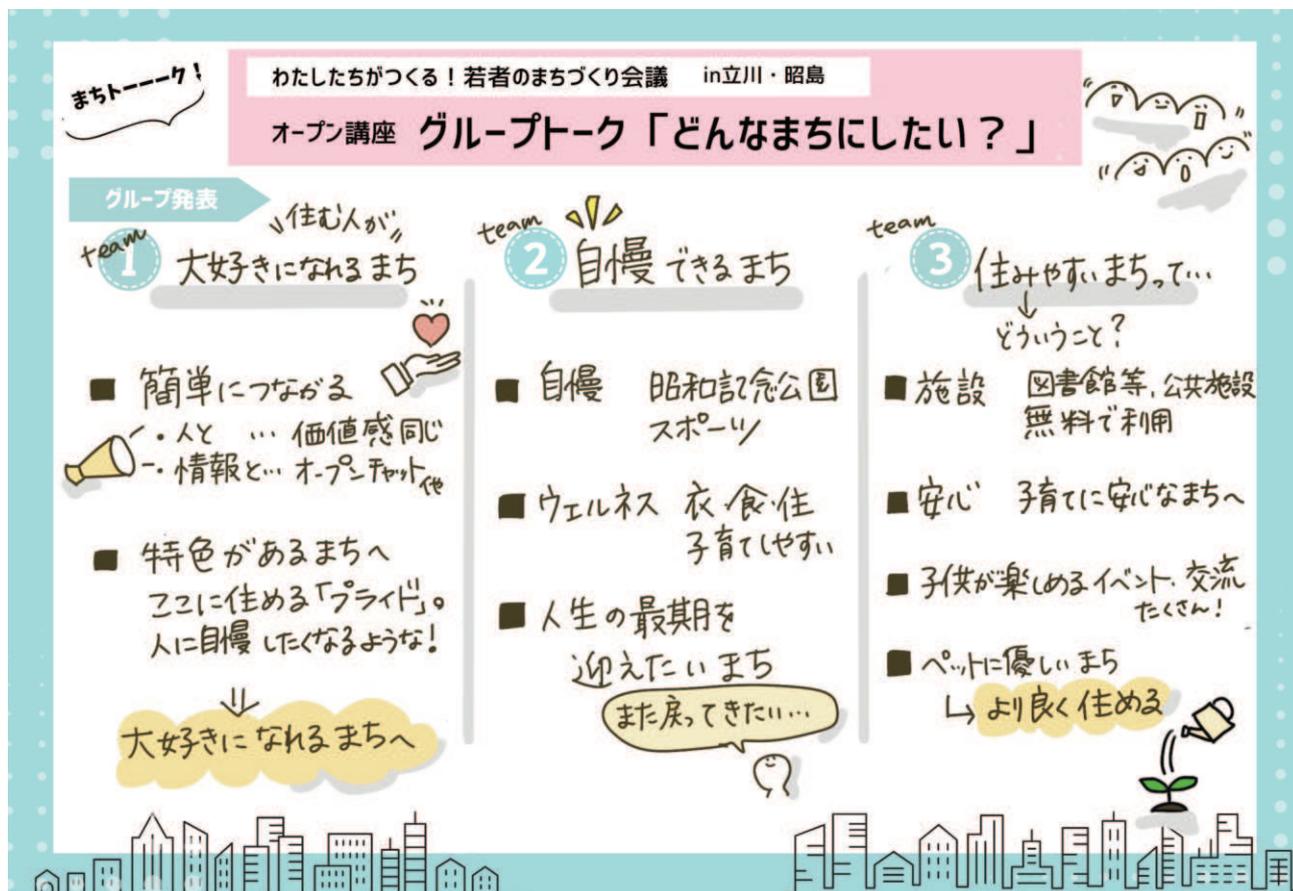
どこに行けば、繋がればいいのかわからない。
(市のイベントや公開されている会議と日程が合わないなど)

Anonymous

家族にお伺いを立てる必要がある

< グループトーク中の様子 >





アンケート

アンケートの結果からも、参加者の多くが本講座を通して新しい気づきやつながりを得たことが分かりました。講演「このまちで、わたしができること」の満足度では、12名が「非常に良かった」2名が「良かった」と回答しました。講演の中で語られた実体験や地域活動の意義に多くの共感が寄せられ、下のような声が挙がりました。また、全体の満足度についても13名が「非常に良かった」1名が「良かった」と評価しており、講義とディスカッションのバランスや、参加者同士の交流を高く評価する声が目立ちました。

アンケート結果より抜粋

- 「まちづくりの先駆者の話が聞けたから」
- 「講演も素晴らしかったし、同じチームのみなさんとつながれた」
- 「普段接しない年代の近い方と話ができ、繋がりができてよかった」
- 「具体的な話を聞いて面白かった」

学び・気づき

アンケートでは、「地域に関わることへのハードルが下がった」「身近な課題を自分ごととして考えられるようになった」といった感想も見られました。特に、「地域のことを話せる仲間ができた」というコメントが複数寄せられており、講座が今後の若者ネットワーク形成のきっかけとなったことがうかがえます。

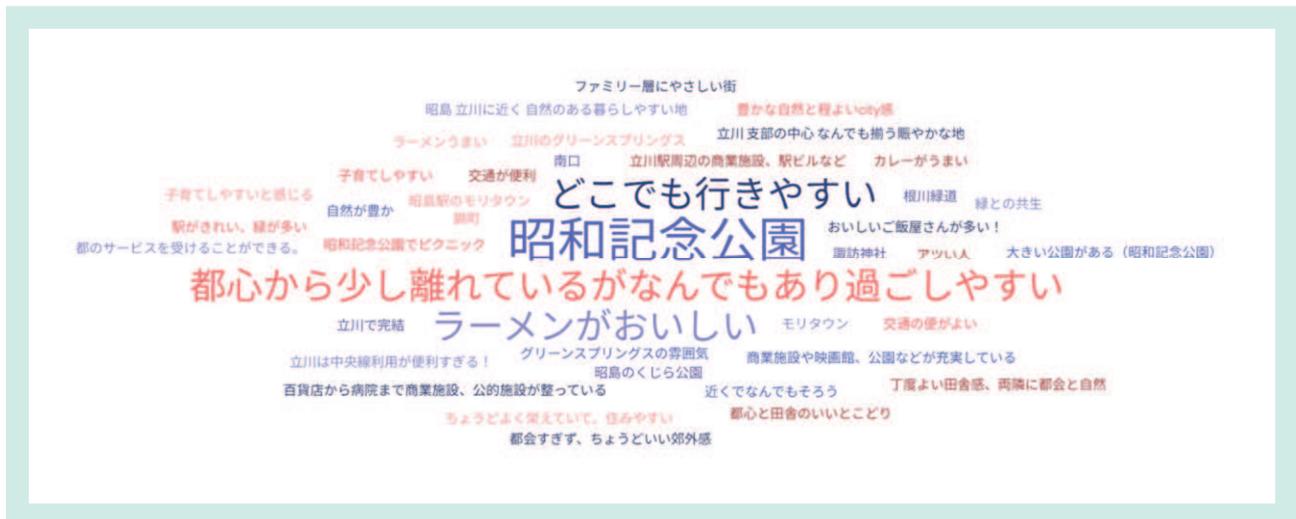
今後への意欲

参加者の多くが、今後の若者会議（第1～3回）への参加を希望。「さらに深く関わりたい」「自分のアイデアを形にした」という前向きな意欲が感じられました。これにより、オープン講座を単発の学びにとどめず、継続的な参画意識を育む機会として位置づけることができました。

総括

本講座は、若者が地域とのつながりを実感し、「自分にもできることがある」と気づく契機となりました。自由な意見交換の場を設けたことで、参加者一人ひとりの思いや関心を引き出すことができ、次回以降の連続講座へのスムーズな導入にもつながりました。全体を通してポジティブな評価が多く、若者会議のスタートとして非常に良好な滑り出しとなりました。

<メンチメーター「立川・昭島の好きなところは？」>



第1回 若者会議

- テーマ：わたしにとっての地域課題って？
- 日時：令和7年11月22日(土) 13:00～16:00
- 会場：子育て支援・保健センター「はぐくるりん」健康増進室
- 目標：
 - 事前アンケートで確認した関心領域や問題意識が近いメンバー同士でグループをつくる
 - 「理想の若者会議とは？」を考える準備として、自分たちの問題意識をグループ単位で形にする
- 内容：
 - ①グループ作り
 - ②若者会議の理想像の初期案作り
 - ③全体ディスカッションで若者会議に必要な要素を整理

冒頭で立川市の酒井市長からご挨拶をいただいたのちに、事前アンケートで伺った関心領域が近いメンバー同士でグループを構成しました。その後、ファシリテーターから「若者会議とは何か？」を学び、立川・昭島における理想のスタイルや目的、運営体制などを協議し、愛称案も検討しました。

立川市・酒井市長のご挨拶

立川市の酒井市長が若者会議の様子を見学に訪れ、参加者に感謝と歓迎の言葉を述べられました。あわせて、立川市のこれまでの取り組みを紹介され、若者の率直な意見や主体的な議論に大きな期待を寄せていること、市政にとって若者の声が重要であることを強調されました。また、本会議を通じて新たな発想やつながりが生まれ、今後のまちづくりに活かされることを願う、前向きなメッセージをいただきました。



立川市の酒井市長

まちトーーク!

第一回 わたしたちがつくる! 若者会議 in立川・昭島 2025年11月22日

「立川市 酒井市長のご挨拶」

若者会議は公約の一つだった!

若者会議は公約の一つだった
公約 50 → うち40は凶ケア!!

やりていこの「つた」って器に魂を入れてもらたよびとても嬉しい♡

立川市 + 昭島市
シナジー効果を期待している!!

立川市の予算について

- これまで
若 ← → 老
- これからは
若 ← → 老
両方の予算配分で

1つのこと→複数の効果

市の予算 → 効果
環境 → 経済(市内業者へ)
給食無償 → 親の負担軽減 → 不登校の子登校のきっかけに!

給食だけでも食べられて!!

1つのことで複数の効果楽しみにしています

酒井市長

グループ作り

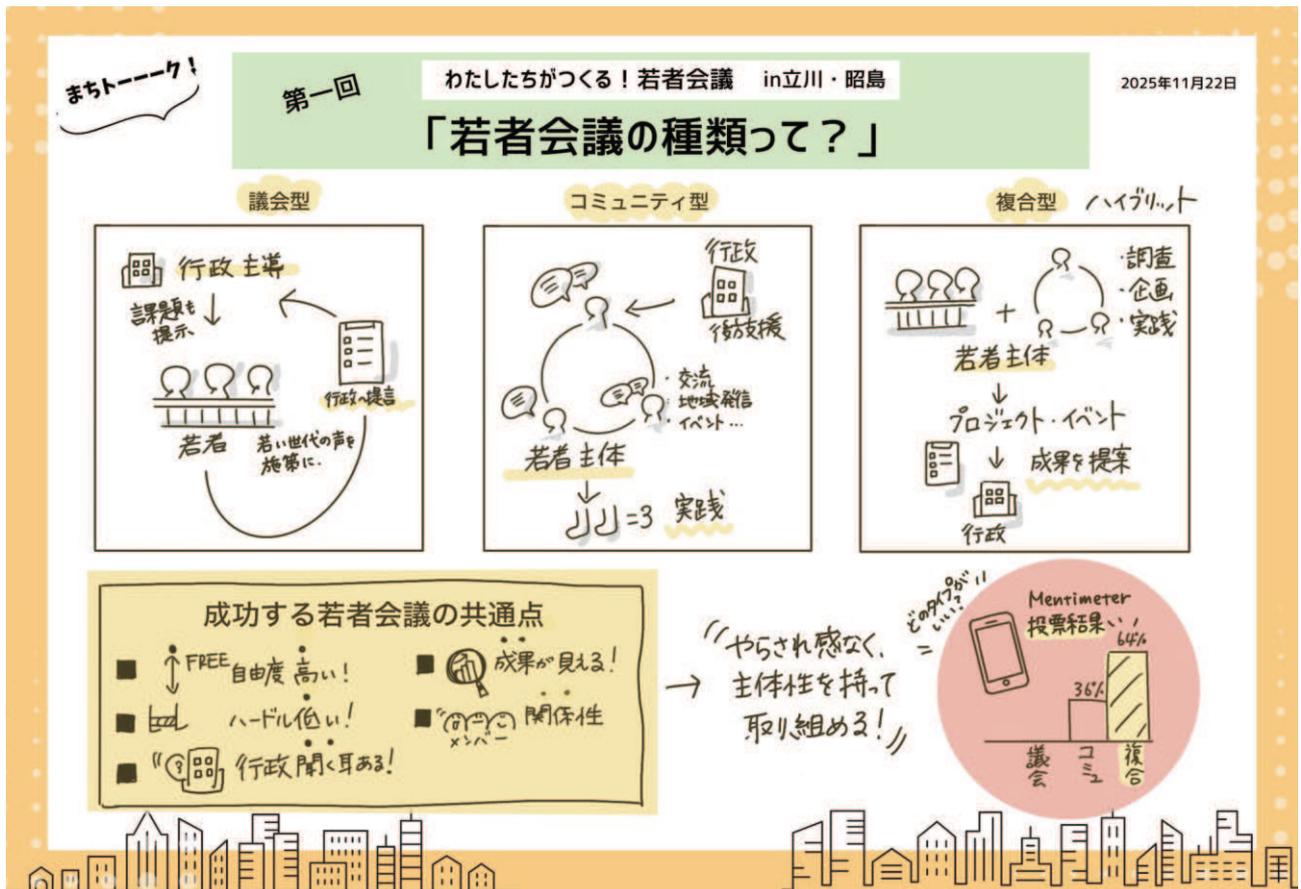
事前アンケートの結果を踏まえ、関心領域や問題意識が近いメンバー同士でグループを構成し、4つのグループに分かれて意見交換を行いました。グループ内では、若者会議への参加のきっかけや、地域に対して感じている課題意識を共有し、今後の議論に向けた土台づくりを行いました。



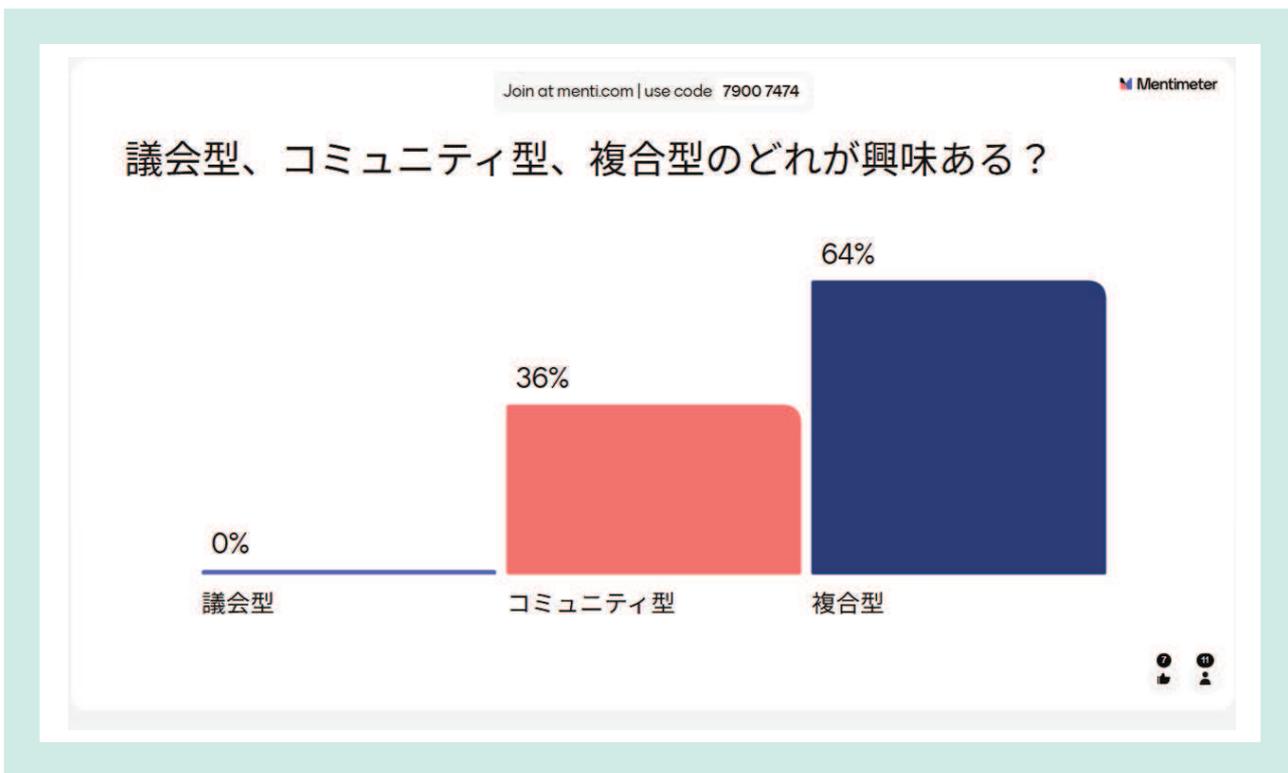
若者会議の初期案作り

若者会議の代表的な形態である「議会型」「コミュニティ型」「複合型」のそれぞれの特徴や役割について学びました。そのうえで、立川市・昭島市において目指すべき若者会議の理想的なスタイルを検討し、目的や役割、参加者の関わり方、運営体制など、「6つの構成要素」を軸に意見交換を行いました。地域の実情を踏まえながら、継続性や実効性のある若者会議のあり方について議論を深めました。

<グラフィックレコーディング>



<メンチメーター「議会型、コミュニティ型、複合型のどれが興味ある？」>



<グラフィックレコーディング>

まちトーーク!

第一回 わたしたちがつくる！若者会議 in立川・昭島 2025年11月22日

【グループワーク】「若者会議の初期案づくり」

若者会議の方向性をつくる

6つの構成要素

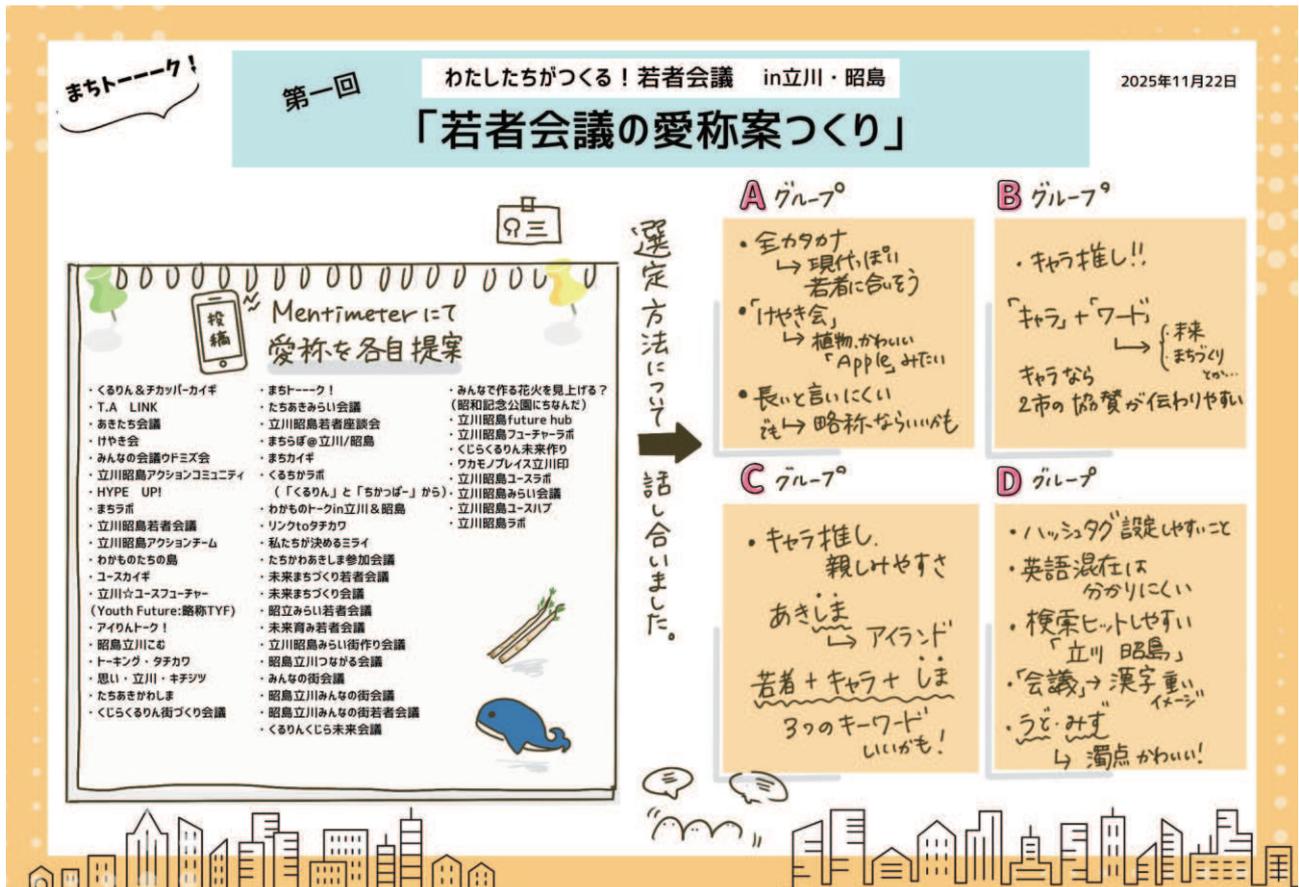
1. 「若者会議」の目的
2. 活動内容
3. 参加対象・方法
4. 運営体制
5. 成果発表有無方法
6. 行政との関わり方

<p>A グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地域課題の洗い出し。活動を通じた若者会議メンバーの成長。(スキル、視点…) 2 テーマやメンバーの体験から課題を特定。(複数想定)上記コミュニティ型として、自分たちで動く。(アクションまで起こす) 3 限定せず、関心があつて前向きなら可。 4 メンバーの関心に応じてプロジェクト別にチームを編成。 5 アクションの実行自体がアウトプット。市報への掲載でアピール。 6 課題特定のためのデータを提供。アクションを取るときはインフラ、人材、知見の提供。(主体はあくまでも若者会議メンバー) 	<p>B グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 皆で街をつくっていると実感する→全員が味わえたら達成！1つのテーマを全体で活動。 2 ニーズ、市長のビジョン知りたい→課題設定→行動→クリア <p>↓</p> <p>新たな課題→解決→複数グループができていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 テーマに賛同する人ならOK。忙しくても参加可能なSNS、オンライン。フラットな関係性。 4 細く長く続けるため、市の職員をサポートほしい。コアメンバー+イベントメンバー+1回メンバーなど様々な関わりかた。 5 市LINE、市報、公的な活動として発表。 6 行政には会場、インフラ等整えてもらいたい。ニーズを吸い上げ、議論、市と若者の方向性合っているか確認し合う。
<p>C グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 立川昭島関わる人で、地域活性化する。若者会議に来るのはハードル高い。ハードル低く、交流できるイベントに。 2 若者会議の前段階に交流できるイベント、コミュできるといい。 3 時間帯の選定、曜日の幅、オンライン参加など誰でも参加できる。出席不可でも参加でき、X、インスタなど、匿名でも参加できる仕組み作り。 4 若者+行政のハイブリットで。行政からも意見もらい、話し合う。 	<p>D グループ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人とのつながり、コミュニティ形成。参加だけでなく変化していく。 2 若者の防災意識を高める活動を。地域ツアーにゴミ拾いや、様々な活動を織り交ぜ、企業や団体を巻き込みながら活動を広げる。 3 グリーンズプリングスなど、場所を一箇所に決めて活動し、若者会議の「場」ができるといいと思う。 4 誰か一人の声でなく、大勢の声を聞く。プロジェクトごと進捗報告し合う。 5 市報、SNS。SNSの運用は課題多いので難しいかも… 6 行政に頼りすぎず、持ちつ持たれつの関係。行政のネームバリューで信頼が得られる。市職員の若手も、一市民として参加してほしい。

愛称案づくり

若者会議の活動の方向性や目指すビジョンを踏まえ、その内容が分かりやすく伝わり、参加者自身が愛着を持って関われる名称について、各自がアイデアを出しながら検討しました。その後、グループごとに分かれて意見をもち寄り、ふさわしい愛称案について活発な意見交換を行いました。

<グラフィックレコーディング>



アンケート

アンケートの結果、参加者の多くが本会議を通じて有意義な時間を過ごしたと感じていることが分かりました。本日の満足度については、10名中9名が「非常に良かった」、1名が「普通」と回答しており、全体として非常に高い評価となりました。

満足度が高かった理由として、参加者からは右のような声が寄せられました。

一方で、「立場や環境の違いによるさまざまな考えに触れ、刺激になった」という声もあり、意見の多様性が学びにつながったことがうかがえます。

＜メンチメーター「若者会議の愛称案を入力してください」

● 若者会議の愛称案を入力してください。

まちトーク!	まちラボ
たちあきみらい会議	立川昭島若者会議
立川昭島若者座談会	立川昭島チームアクション
まちらぼ@立川/昭島	わかものたちの島
まちカイギ	ユースカイギ
くるちクラブ (市公式キャラのくるりんとかっぱーから)	立川・ユースフューチャー (Youth Future : 略称TYF)
わかものトークin立川&昭島	アイリントーク!
タチカワヘリンク	昭島立川にむ
私たちがミライを決める	トーキング・タチカワ
たちかわあきしま参加会議	思い・立川・キチジツ
未来まちづくり若者会議 未来まちづくり会議 昭立みらい若者会議 未来育み若者会議 立川昭島みらい街作り会議 昭島立川つながる会議 みんなの街会議 昭島立川みんなの街会議 昭島立川みんなの街若者会議 くるりんくじら未来会議	たちあきかわしま
くるりん&チカッパーカイギ	くじらくるりん街づくり会議
TALINK	みんなで作る花火を見上げる? (昭和記念公園にちなんだ)
あきたち会議、けやき会、みんなの会議ウドミズ会	立川昭島ユースラボ、立川昭島みらい会議、立川昭島ユースハブ、立川昭島ラボ、立川昭島future hub、立川昭島フューチャーラボ
立川昭島アクションコミュニティ	くじらくるりん未来作り
HYPE UPI!	ワカモノプレイス立川印

アンケート結果より抜粋

- 「同じ気持ちを持った方と未来に向けた話ができ、大変有意義な時間となりました」
- 「いろんな意見が聞けて楽しかった」
- 「近い意見を持つメンバーで集めていただいたおかげで、フランクに話せて楽しい会議になりました」
- 「ざっくばらんに話ができ、市長の挨拶も印象的でした」
- 「学生から社会人まで幅広い世代の方と話すことができ、刺激になりました」
- 「立川がこれから良くなっていきそうだと感じられ、自分自身の考え方を見直すきっかけにもなりました」
- 「引越してきたばかりの人同士でつながれたことが嬉しかった」

学び・気づき

アンケートの自由記述からは、「自分のまちづくりへの思いを言葉にできたこと」や「他者の意見を通じて、自身の視野や価値観の偏りに気づけたこと」「同じ地域に関わる仲間とのつながりが生まれたこと」など、参加者一人ひとりにとって内省と交流の両面で大きな学びがあったことが読み取れました。

総括

第1回若者会議は、参加者同士が安心して意見を交わすことのできる雰囲気の中で実施され、若者が地域やまちづくりについて自分ごととして考えるきっかけとなりました。

高い満足度と前向きな感想が多く寄せられたことから、若者会議のスタートとして非常に良好な滑り出しとなり、今後の継続的な議論やネットワーク形成につながる土台を築くことができましたといえます。

<会議中の様子>



第2回 若者会議

- テーマ：“参加したくなる若者会議”ってどんなカタチ？
- 日 時：令和7年12月20日(土) 13:00～16:00
- 会 場：たましんRISURUホール第1会議室
- 目 標：
 - ゲスト講師の話から他地域の実践を学び、自分たちの活動に活かせる視点を得る
 - 「どんな会議なら参加したいか」「どうすれば声が届くか」を整理し、提言に向けた素案を作る
- 内 容：
 - ① 講演「若者会議先進事例のリアル」
 - ② 理想の若者会議スタイル確定
 - ③ 次回発表の各テーマの担当グループ決定

第2回若者会議では、「参加したくなる若者会議とはどのような場か」をテーマに、先進事例の学びとグループワークを通じて、立川・昭島における若者会議の具体像を深めました。前回に引き続き、事前アンケートで関心領域が近いメンバー同士で構成されたグループで議論を行い、次回の提言発表を見据えた内容整理と役割分担を行いました。

講演「若者会議先進事例のリアル」

全国ユースカウンシル連盟の原田伊織さんを講師に迎え、全国各地における若者会議の先進事例や、立ち上げ期の工夫、継続的な運営に向けた課題などについて講演いただきました。講師自身の実体験を交えた具体的な話から、若者会議がどのように行政や地域と関わり、提言や実践につながっていくのかを学ぶ機会となりました。

参加者からは、「活動のイメージがより具体的になった」「自分たちの若者会議の将来像を考えるヒントになった」といった声が聞かれました。



講師の全国ユースカウンシル連盟 原田伊織さん

<会議中の様子>



まちトーーク!

第2回

わたしたちがつくる! 若者会議 in立川・昭島

2025年12月20日

講演「若者会議の先進事例のリアル」



全国ユースカウンシル連盟発起人
原田 伊織 氏
尼崎市在住 大学生

ユースカウンシルとは... = 若者会議

MISSION
若者の声を、日本中に。

若者が中心
地域に影響を与える
継続した活動

共同課題と可能性

まず、全国の事例をまとめた
いまをまとめる
プロジェクト

ユースカウンシルに関する事業を
行っている全国の16団体にインタビュー
活動のゴールによってグループをした

聖 → 加ボザル
ゴール → 提案 (政策につなぐ)

アイデア
企画
実行

ハイブリッド
提案
実行

何から
はじめたの?

その上でみつかった、

5つの課題

- ① 形式的 象徴的になりがち
- ② 多様な声を集める障壁
- ③ 影響力の弱さ → 具現化できない
成果出ない
- ④ 行政との連携 → 一方向に
なりがち
- ⑤ 継続の仕組み弱 → 職員の変更
メンバーなど

届かない...
若者会議

「自分たちの声」
「地域の声」

若者会議の可能性は無限大

1. 民主主義の実践
2. 仲間と出会う場
3. 政策的なインパクトの可能性あり

事例) 尼崎ユースカウンシル事業
Up to You!

若者の「きがねなく」
社会に参画できるまち

あえてひらがな
会議 ↔ 日常
ハードル下げる

「加」でなく「画」
自分たちで動かす!!
という思い

ヤングケアラー
授業で存在を知った
同じ年代
介護の知識 (自分が
やるべき課題!)

まずは正しい理解
政策提言
活動の限界感じた
ことも...

「行政との共有の難は
一人支援の不安定さ」

方向修正しながら
進んできた

授業で存在を知った
自分
メンバー
市長

スケートボードパーク
を作りたい

まずは
スケボーのイメージアップが重要!
活動: 体験会 他
市長に知ってもらって

・体験会
・社会実験
・フラッシュ

5年かかると
実現

最強の政策提言
→ 「やってみせること」

<スライドー「原田伊織さんに聞きたいことは?」>

✎	Anonymous 13:27	これらの課題を原田さんの活動ではどうやって乗り越えてきたんですか?	1点
✎	Anonymous 13:40	若者の声を広く集める方法について、課題だとお話をありましたが、原田さんはどのように取り組まれましたか?	1点
✎	Anonymous 13:55	若者の声を広く集める方法をどのようにおこなったのか、どのくらい集めることができたのか知りたいです	1点
✎	Anonymous 13:57	1期生にいた方の中で2期も参加してくれた人はどれくらいいましたか?どれくらいの方が長年参加されますか?	1点
✎	Anonymous 13:59	スケートパークができた後、深夜にやってくる人や、物の破壊が減ったかどうかと、騒音問題などが解決したか、その後については調査しましたか?街としての課題の方が解決したか結果が知りたいです。	1点

前回の振り返り：コンセプト・愛称案

講演後は、第1回で検討した若者会議のコンセプトや愛称案について振り返りを行いました。メンチメーターを活用した投票を通じて、参加者の意見を可視化しながら、「参加したくなる」「親しみやすい」名称やコンセプトについて認識を共有しました。

これにより、若者会議の方向性や目指す姿を改めて確認し、後半のグループワークにつなげました。

<グラフィックレコーディング>

まちトーーク!

第2回 わたしたちがつくる! 若者会議 in立川・昭島

2025年12月20日

若者会議の愛称案の比較検討および候補精査

前回挙げた愛称案をカテゴリ分け

まずはカテゴリ選びの投票 →

A <small>アイディア</small> 地名強調型	1
B 特産品	1
C キャラ推し	6
D 未来・ビジョン	2
E 活動・場所強調	2
F シンプル・キャッチ	1

← Mentimeter

さらに絞る

くるちカラボ 5

くるちカミライカイギ 2

くるちカミライカイギ 2

くるちカラボ 2

クルチカカイギ 1

アイリムトーク 1

くるちカラボ 5

くるちカミライカイギ 4

このカテゴリから

愛称案は比較検討を重ね、候補を2案まで絞り込みました。本年度の提言として、こちらの2案を発表します。

グループトーク①：若者会議の存在意義・目的の共有

各グループに分かれ、「立川・昭島の若者会議は〇〇が〇〇をする場」というフレーズを軸に、若者会議の存在意義や目的について議論しました。

「なぜ若者会議が必要なのか」「誰のための、どのような場であるべきか」といった視点から意見を出し合い、若者の声を行政や地域につなぐ役割や、若者同士がつながるプラットフォームとしての意義を整理しました。

<グラフィックレコーディング>

まちトーク！ 第2回 わたしたちがつくる！若者会議 in立川・昭島 2025年12月20日

若者会議の存在意義・目的の共有

「三三三」グループ トーク 誰が参加するの？ どういう目的？ ゴールは？

A 誰が？ 10～30代 若者世代
地域貢献しながら + コミュニティ
子ども支援
日本文化盛り上げ
スポーツ
環境を守る } 地域貢献していく

B 誰が？ 様々な属性OK! 「住むも通勤も!
サイトマジョリティ
一般の声を集め、
行政へ届けられる場に!
↓ さらには
解決する

C 誰が？ 10～30代
挑戦を支援する場
課題に対して
↓
プロジェクトを立ち上げていく
若者会議は
学生が街を知り
きっかけにも!

D 誰が？ 自分を若者と思う人
市の若い職員にも参加してほしい
活重カ
↓
交際検証までやる
地域貢献しながら
コミュニティ作り
行政 Win Win 若者
若者が住むことで
市の収入が増える!

次回発表に向けた担当グループ決定

最後に、第3回で予定している提言発表会に向けて、提言の骨子を共有し、各テーマごとの担当グループを決定しました。

これまでの第1回・第2回で積み重ねてきた議論をもとに、今回は提言内容の整理から資料作成、発表までを行うことを確認し、参加者それぞれが役割を持って関わる体制を整えました。

グループトーク②：若者会議の場の具現化

続いて、整理した目的をもとに、「どのような体制・活動・参加方法であれば実現できそうか」をテーマに、若者会議の場の具現化を行いました。

参加のハードルを下げる工夫や、継続的に関わられる仕組み、提言と実践を両立させる運営のあり方などについて、各グループから具体的なアイデアが出されました。

<グラフィックレコーディング>

第2回 わたしたちがつくる！若者会議 in立川・昭島 2025年12月20日

若者会議の場の具現化・ビジョンの深堀り 4

A 何かせりたいけど どうすれば...? ぞういんのための場
 ↓
 若者会議なら行政とつながれる!
 意見 時間 「どちらかあるけど...」という人が集まれば、何か実現できるかも...
 「ワクワク」

B 「声なき声」をどう集め、落とし込む?
 ↳ 解決の場として活動していきたい
 • 課題選定難しい... どう選ぶ?
 ↓
 回を重ねるごとに 問題を提起しながら進めよう!

C 同じ地域のつながりほしい!
 若者会議
 ↑ ↑ ↑
 学生 若者 会場
 ← 外からの意見にも耳を傾ける
 ↓
 プロジェクト!

D 広い地域ツアー
 LINE で意見募集 } 「気軽に参加」にフォーカス
 Zoom で定例会 } グリーンスタンプスなど目につく所で活動する
 ↓
 メンバー募集にも!

アンケート

■ 講演(全国ユースカウンスル連盟 原田伊織さん)について

講演の満足度については、「非常に良かった」8名、「良かった」1名、「普通」2名、「よくなかった」1名という結果となりました。

「非常に良かった」「良かった」と回答した参加者からは、全国の若者会議の先行事例や、立ち上げ期のリアルな動き、講師自身の実体験を交えた内容に対し、高い評価が寄せられました。

一方で「よくなかった」と回答した1名については、参加者個人の事情により講演途中からの参加(遅参)となったことが理由であり、講演内容そのものに対する否定的な評価ではありませんでした。

そのため、講演の構成や内容については、全体として参加者から高い評価を得ていたといえます。

また、「普通」と回答した参加者からは、「より継続的なコミュニティ形成の事例や、行政側の視点も含めた話を聞きたかった」といった、今後への期待を示す意見が寄せられており、講演内容のさらなる深化への要望として受け止められます。

■ グループワークについて

グループワークの満足度は、「非常に良かった」10名、「良かった」1名、「普通」1名と、全体として非常に高い評価となりました。

理由としては、

「普段話さないテーマについて意見交換でき、刺激になった」

「少人数で、それぞれの意見をしっかり伝えられた」

「互いを尊重しながら、自分の考えを言い合える雰囲気があった」

「前回より多様な意見が聞けた」

「同じ思いを持つメンバー同士で話しやすかった」

といった声が多く寄せられ、安心して発言できる対話の場が形成されていたことがうかがえます。

一部では、「テーマが抽象的でまとめるのが難しかった」という声もあり、今後の進行やテーマ設定に向けた示唆も得られました。

学び・気づき

アンケート全体を通して、参加者からは、「若者会議の全国的な広がりや共通課題を知ることができた」「多様なバックグラウンドを持つ参加者との対話により、視野が広がった」

「課題をどのように整理し、解決につなげていくかを考える機会になった」など、知識面・思考面・関係性の面での学びが多く見られました。

総括

第2回若者会議では、外部講師による講演を通じて若者会議の先行事例や可能性への理解を深めるとともに、グループワークを通じて参加者一人ひとりの課題意識や考えを具体的に言語化することができました。

特に、全国の事例や実践のリアルを踏まえた議論を行ったことで、「何を目指し、どのような形で提言していくのか」といった視点が共有され、次回の提言発表に向けた土台づくりが進んだ点は大きな成果といえます。

また、回を重ねるごとに参加者同士の関係性が深まり、多様な意見を尊重しながら議論を積み重ねる姿勢が醸成されてきました。第1回で生まれた関心やつながりが、第2回では具体的な方向性や論点へと発展し、次回の提言発表へとつながる深みを持たせることができた回となりました。

第3回 若者会議・提言発表会

- テーマ：こんな若者会議にしたい!わたしたちの声を届けよう
- 日 時：令和8年1月24日(土) 13:00～16:00
- 会 場：イーストテラス・サブスリー 301会議室
- 目 標：
 - これまでの学びと議論を集約し、行政へ「若者会議の在り方」を提言として届ける。
 - 今後の若者会議(次年度以降)に継承できる基盤を築く。
- 内 容：
 - ① 提言発表準備
 - ② 提言発表
 - ③ 両市長のコメント

前半は提言発表会の準備として、事務局からあらかじめ提示していた骨子をもとに、各グループで担当パートの部分を中心に精査を行いました。その後、全体で意見のすり合わせを行い、スライドの修正を進め発表会に向けた準備を進めました。

後半は、両市長をはじめ、行政関係者や一般傍聴者に向けて、立川市・昭島市スタイルの若者会議のあり方について提言発表を行いました。

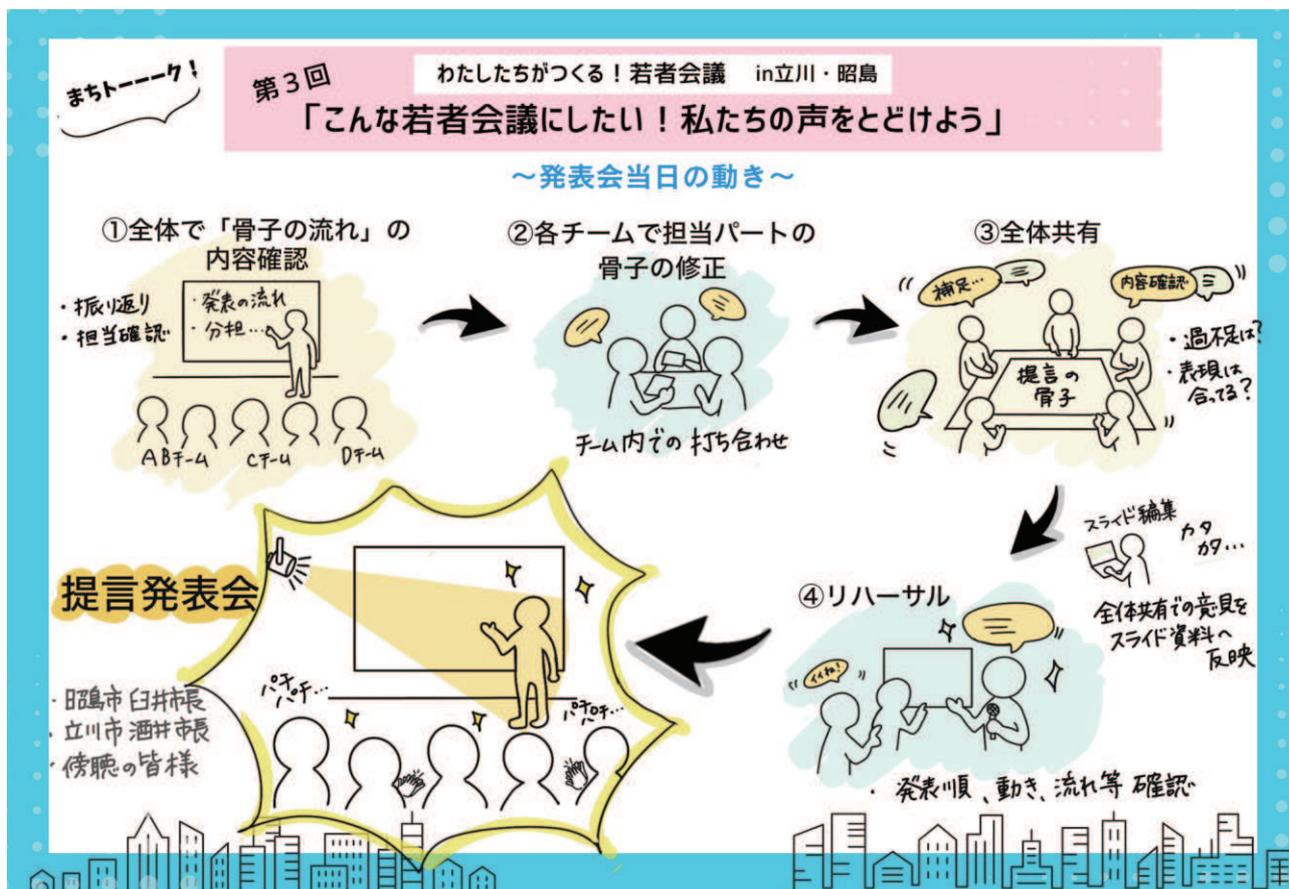
<会議中の様子>



提言発表会準備

前回決定したグループの担当パートを中心に、各グループで骨子の内容を精査し、修正を実施しました。その後、全体で意見のすり合わせを行い、各グループの想いを集約させました。

<グラフィックレコーディング>



提言発表会

提言発表会では、立川市の酒井市長、昭島市の臼井市長をはじめとする行政関係者や、一般傍聴者の合計18名の人に向けて提言発表を行いました。提言発表後は、両市長からのコメントをいただき、次年度に向けて若者会議の在り方について、確かなものとして提言をすることができました。

<グラフィックレコーディング>

わたしたちがつくる！若者会議 in立川・昭島

立川市・昭島市若者会議 提言発表会

～提言発表のまとめ～

1.自分たちが感じる立川市・昭島市

なぜ私たちは若者会議に参加したのか？ ↓

- 地域と関わりたい
- 思いを届け場がほしい！
- 仲間とつながりたい
- 自己成長

理想のまち

- ☑ 相談できる先がある
- ☑ 災害時につながりやすい
- ☑ 簡単に意見を言える

3.今年度の学び②

若者会議の構想

- 自由度の高いテーマ設定
- 参加のハードルが低い
- 成果が見える・広がる

→ 発表の場がある

やらされ感なく主体性を持って取り組める

4.若者会議に求める役割

若者の心理的・物理的な

- ハードルを下げる「入口」としての役割
- 若者の「思い」を行政へ届け役割

↓

行政/市民との「つながり」や「成果」を可視化する役割

2.今年度の学び①

先進自治体の取組みと私たちの選択

若者会議のスタイル

- ① 議会型（行政主導）
- ② コミュニティ型（若者主体）
- ③ 複合型（ハイブリッド型）

私たちの選択 = 複合型（ハイブリッド型）

立川・昭島モデルの若者会議 あり方に関する提言

提言①
若者会議は「若者の声を集め行政に届ける場」です。

提言②
若者会議は「コミュニティづくりをしながら地域貢献する場」です。

提言③
若者会議は「若者が行政とつながり、一步踏み出し挑戦する場」です。

まちトーク!

第3回

わたしたちがつくる！若者会議 in立川・昭島

立川市・昭島市若者会議 提言発表会

～両市長からのコメント～

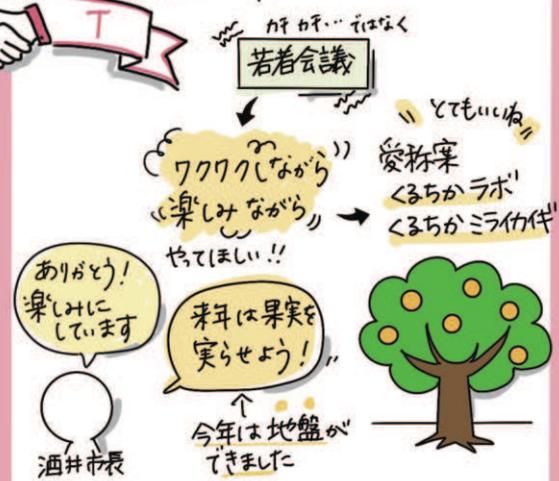
昭島市 白井伸介市長

皆さんの街への想いに感動しました。
人間の幸せは、大きく3つあります



立川市 酒井大史市長

若者会議の開催が公約のひとつでした。
とても嬉しいです!



アンケート

アンケート結果から、参加者の多くが本提言発表会を通じて高い満足度と達成感、そして新たなつながりを実感したことが分かりました。特に市長への提言発表という機会そのものを高く評価する声が多く寄せられました。参加者からは、右のような声が挙がっています。

また、若者会議全体を通しての満足度についても、「非常に良かった」「良かった」との評価が多数を占め、会議のプロセスそのものが有意義だったと受け止められていることがうかがえます。

アンケート結果より抜粋

- 「同じ志の方が集まって議論できたのがとても嬉しかった」
- 「近所に住む人となりができた」
- 「無事に思いを市長に届けられて感慨深かった」
- 「より具体的な課題やアイデアを実現していきたい」
- 「次年度も参加したい」

総括

本提言発表会は、若者が地域や行政とのつながりを実感し、「自分たちの声が届く」「関わり続けたい」という意識を醸成する場となりました。市長への提言という明確なアウトプットを設定したことで、議論が具体化し、参加者の達成感や当事者意識を高める結果につながっています。また、参加者同士の新たなつながりも生まれ、今後の地域活動や若者会議の継続に向けた良好な基盤づくりができたと評価できます。全体として、若者会議の意義と可能性を行政・参加者双方が共有できた、非常に実りある取り組みであったといえます。

5. 成果と提言

提言発表会資料

まちトーーク！ VOICE from 18→39



立川市・昭島市若者会議 提言発表会

2026(令和8)年1月24日
昭島市 イーストテラス・サブスリー 3階会議室

まちトーーク！ VOICE from 18→39

1. 自分たちが感じる立川市・昭島市 なぜ私たちは若者会議に参加したのか？

<参加者の属性>

年齢

10代	5%
20代	20%
30代	75%

性別

女性	45%
男性	55%

区分

両方	10%
昭島市	20%
立川市	70%

n=20

3

1. 自分たちが感じる立川市・昭島市

なぜ私たちは若者会議に参加したのか？

- ①地域やまちに関わりたいという思いがあった
- ②自分の想いを届ける場を求めている
- ③同じ関心を持つ仲間とつながりたかった
- ④参加のハードルが低く、楽しそうだと感じた
- ⑤自分自身の成長につながると感じた



1. 自分たちが感じる立川市・昭島市

なぜ私たちは若者会議に参加したのか？

若者会議には、「**地域に関わりたい**」という思いを持ちながらも、きっかけを見つけられなかった若者が、**想い**を届け、**仲間**と出会い、自分ごととして**まちを考える場**を求めて参加した。



まちトーク！ わたしたちがつくる！若者のまちづくり会議 in立川・昭島
オープン講座 グループトーク「どんなまちにしたい？」

グループ発表

team 1 住む人が、大好きになれるまち
大女子になれるまち

- 簡単につながる
・人と…価値感同じ
・情報と…オープンな街
- 特色があるまちへ
ここに住める「プライベート」に
人に自慢したくなるような！
↓
大女子になれるまちへ

team 2 自慢できるまち

- 自慢 昭和記念公園 スポーツ
- ウェルネス 衣・食・住 子育てしやすい
- 人生の最期を 迎えたらいまち まで戻ってきたい…

team 3 住みやすいまちって…
どいうこと？

- 施設 図書館等、公共施設 無料で利用
- 安心 子育てに安心なまちへ
- 子供が楽しめるイベント 交流 たくさん！
- ペットに優しいまち により良く住める

オープン講座
グループトークより
6

1. 自分たちが感じる立川市・昭島市

若者たちが考える理想のまち



行政からの情報がすぐにわかる



市民が簡単に意見を言える
(リアルな場、オープンチャットなど)

困ったときに相談できる先がある



若者が気軽に集まったり、
使いやすいスペースがある



多世代と関われる居場所がある



共通の関心を持つ人とつながれる
気軽に参加できるイベントがたくさんある

災害時につながりやすく安心できる



自分自身の成長にもつながる
視野が広がる活動ができる



オープン講座 講演「このまちでわたしができること」より

7

2. 今年度の学び① 先進自治体の取組みと私たちの選択

若者会議のスタイルType 1. 議会型

議会型は、行政(市役所や議会)が主導して設置し、実際の議会のような形式で運営されるのが特徴

主な目的は、若者の視点から政策を立案し、行政に提言すること

参加する若者メンバーは公募や推薦で選ばれ、任期が定められていることが多い。中には、予算提案権が与えられ、若者たちが考えた政策が実際に予算化され、事業として実施される事例も。



実施自治体例：愛知県新城市「新城市若者議会」

出典：新城市

8

2. 今年度の学び① 先進自治体の取組みと私たちの選択

若者会議のスタイルType 2. コミュニティ型

コミュニティ型若者会議は、若者が主体となって立ち上げ、運営される形態

行政は運営を委託したり、後方支援に徹する。政策提言だけでなく、若者同士の交流、地域の魅力発信、イベント企画、居場所づくりなど、活動内容は多岐にわたる

アイデアを出すだけでなく、自ら企画・実践し、地域課題の解決や活性化に直接貢献する点が大きな特徴



実施自治体例：東京都多摩市「多摩市若者会議」

出典：多摩市

9

まちトーーク！ 第2回 わたしたちがつくる！若者会議 in立川・昭島 2025年12月20日

若者会議の愛称案の比較検討および候補精査

前回挙げた愛称案をカテゴリ分け
まずはカテゴリ選定の投票 → Mentimeter さらにつづる

A	地名強調型	1
B	特産品	1
C	キャラ推し	6
D	未来・ビジョン	2
E	活動・場所強調	2
F	シンプル・キャッチ	1

このカテゴリが

くちかラボ 5
くちかミライ 4

愛称案は比較検討を重ね、候補を2案まで絞り込みました。本年度の提言として、こちらの2案を発表します。

第2回若者会議より

KURU・CHIKA

ミライ

会議

4.若者会議に求める役割 (若者会議で実施したいこと)

①若者の心理的・物理的なハードルを下げる「入口」としての役割

【求められる背景(課題)】

- 学業、仕事、育児で忙しい若者 → 固定日時の対面会議は参加の大きな障壁
- 「若者会議」自体にハードルを感じる → 一歩踏み出せない層がいる



具体的な事例案

- **ハイブリッド運営とプロジェクト制** : 各取り組みごとにグループを分け、進捗相談はオンライン、深い対話はリアル(GREEN SPRINGS等の開放的な場所)を併用する。
- **日常の導線上的での活動** : GREEN SPRINGSのような若者が集まるスポットを拠点化し、「ついでに寄れる」環境を整える。



4.若者会議に求める役割（若者会議で実施したいこと）

②若者の「想い」を行政に届ける役割

【求められる背景（課題）】

- 意見が一部の参加者に偏る ⇒ 声をあげないひとたちの本音がすくい上げられていない
- 提案して終わりになる ⇒ 本当に地域のためになったのか検証されないことが多い



具体的な事例案

- **若者からの意見収集** : LINEやSNS等を活用しながらオープンな活動をし、若者会議に参加していない若者からも意見を集める。
- **効果検証の仕組み化** : 活動の結果、街がどう変わったか、課題が解決されたかをデータや実感ベースで検証し、次年度の活動や行政への再提案に活かす。

19

4.若者会議に求める役割（若者会議で実施したいこと）

③行政/市民との「つながり」や「成果」を可視化する役割

【求められる背景（課題）】

- 活動成果が可視化されない ⇒ 行政や市民からの信頼を得にくく、協力体制が広がりにくい



具体的な事例案

- **成果のプロセス発信** : ゴミ拾いを通じ、住んでいる街をより知ってもらうための地域ツアーなどを企画し、SNSや市報を通じて活動を知ってもらい、気軽に参加できることを伝える
- **行政との相互補充** : 行政が知りたい若者の想いを届ける。行政と議論し、意見をもらうことで活動の方向性があるか確認しあう。



20

5. 立川・昭島モデルの若者会議 あり方に関する提言

提言①

若者会議は「若者の声を集め行政に届ける場」です。

提言②

若者会議は「コミュニティづくりをしながら地域貢献する場」です。

提言③

若者会議は「若者が行政とつながり、一步踏み出し挑戦する場」です。



21

6. まとめ・展望

令和7年度に実施した「若者会議」は、立川市と昭島市が連携し、若者の声を市政へ反映させるための極めて有意義な取り組みとなりました。全4回の開催を通じ、両市の若者が主体的に「自分たちが参加したくなる若者会議のあり方」を議論し、最終回では両市長へ直接提言を行いました。

本事業の成果として特筆すべきは、参加者の満足度の高さです。アンケートでは「地域に関わるハードルが下がった」「自分たちの声が届くと実感した」といった声が寄せられ、単なる意見交換に留まらない事業を実施することができました。また、チラシの郵送やSNS広告による効率的な周知により、潜在的な若者の参画ニーズを掘り起こすことができましたと言えます。

本年度の議論により、運営体制や愛称案、目指すべきビジョンといった「若者会議の器」が整いました。次年度からは、いよいよこの基盤の上に立ち、具体的な地域課題の解決に向けた提言や実践を行うフェーズへと移行します。

参加者からは「次年度以降も深く関わり、アイデアを形にしたい」という前向きな意欲が寄せられており、本事業で生まれた若者同士のネットワークは、今後の両市のまちづくりを牽引する大きな原動力となることが期待されます。本報告書をもって、令和8年度以降の本格始動に向けた確かな展望を示すものといたします。

参加者と立川市酒井市長と昭島市臼井市長



本事業はサマージャンボ宝くじの収益金を活用して実施しています。